

令和5年度 IMO-ZO コミュニティ・スクール(五中地区)



IMO-ZO コミュニティ・スクールでは第七小学校と第九小学校、第五中学校の3校が一体となって地域社会に貢献する児童・生徒をはぐくみます。

1 IMO-ZO CSとは

第七小学校、第九小学校、第五中学校の学校運営協議会をCS委員会に一本化して、三校が一体となって学校運営を行います。

2 IMO-ZO CSが目指す小中一貫教育

「円滑な接続で連携の強化を図る」東大和市の小中一貫教育の方針のもと、IMO-ZO CSにおいて、系統性と連続性を更に付加して、義務教育9年間の教育課程を編成します。

3 IMO-ZO CSの特徴

三校の委員によって、「IMO-ZOカフェ」(学校運営協議会)が組織されています。小中一貫教育をより深め広げるために、CSを基盤として小中学校の教育課程に一貫性をもたせることに重点を置いています。

4 「IMO-ZO カフェ」(学校運営協議会)の開催

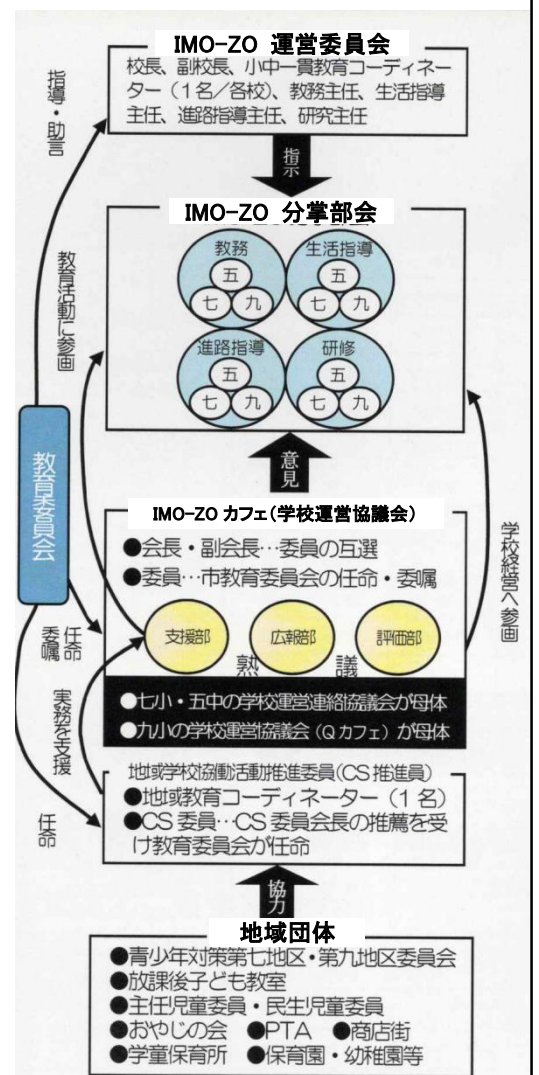
年間4回の委員会を開催します。

○評価部(七小) ○支援部(九小) ○広報部(五中)

5 IMO-ZO運営委員会

分掌部会は、4部会で構成します。

- ◆教務部会 IMO-ZO アンケート・学力調査分析、教育課程調整 等
- ◆生活指導部会 生活指導マニュアル
- ◆研修部会 小中一貫授業、小小研
- ◆進路指導部会 高校入学選抜情報共有



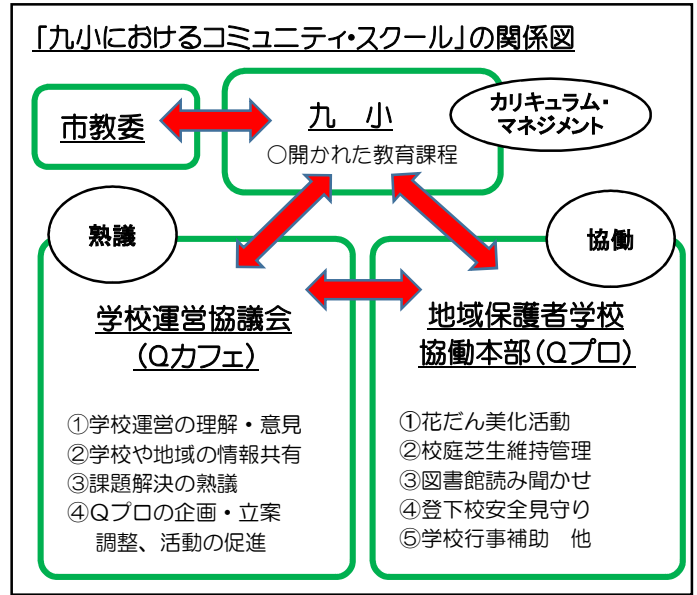
九小は、「IM0-Z0コミュニティ・スクール」で変わります。

九小は、「IM0-Z0コミュニティ・スクール」で、「地域とともにある学校づくり」を目指します。

九小は、「IM0-Z0コミュニティ・スクール」で、子供も家庭も地域も学校もWIN-WINになることを目指します。

■九小における「IM0-Z0コミュニティ・スクール」の概要

- 子供一人一人の幸せのために、「よりよい九小の学校づくりを通じて、地域社会に貢献する」という目標を共有して、地域や保護者と連携・協働を図りながら、開かれた教育課程を推進しています。
- 学校運営協議会(Qカフェ)は、九小のよりよい学校の姿を共有し、その達成に向け、知恵を出し合い、イメージを形にする熟議を行っています。
- 地域保護者学校協働本部(Qプロ)は、九小の学校応援団として、みんなで協力し助け合い、楽しみながら、連携・協働活動を行っています。



■地域保護者学校協働本部(Qプロ)の活動の特徴・工夫

○「トウキョウサンショウウオ」が生息する「ふるさと」

九小の「ふるさと」には、トウキョウサンショウウオが生息しています。平成25年度から地域の専門家の指導の下、子供たちがトウキョウサンショウウオを飼育し、狭山丘陵の自然に放流する保護活動を続けて、令和4年度で10年目になります。

トウキョウサンショウウオの飼育放流活動を通して、子供たちは地域の一員としての役割を考える機会になっています



トウキョウサンショウウオの放流

○校庭芝生広場800㎡(校庭一部芝生化)を実現させる「チーム力」

平成26年度4月に、校庭芝生広場づくりプロジェクトを立ち上げることになりました。Qプロコーディネーターが調整役となり、ボランティアの募集から、6000個のポット苗づくり、ポット苗植えまでの段取りについて、学校との綿密な打合せを行いました。児童と地域・保護者が総出で、ポット苗植えを行い、ローコストで芝生広場を完成させました。毎年、運動会には、芝生の上で観戦や親子昼食ができるようになりました。

(令和4年現在800㎡)

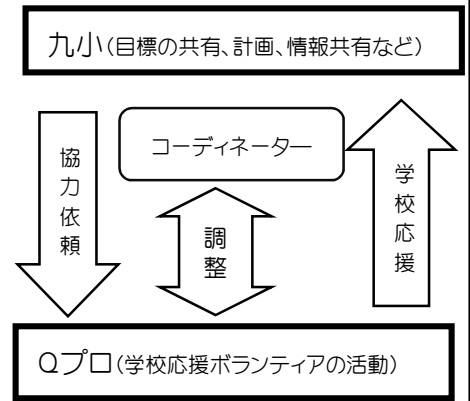
Qプロは校庭芝生化をきっかけに、毎週1回芝刈りや水やりなどの維持管理活動を続けて、令和4年度で9年目となります。

このように、Qプロの協働活動のおかげで、「トウキョウサンショウウオ」や「校庭芝生広場」が、九小の自慢の教育環境になっています。平成30年度からは、「地域の教育力活用カレンダー」を発行し、地域や保護者、専門家の教育力を活用した学校運営の充実を図っています。



Qプロによる芝刈り

- 平成24年度、Qプロを立ち上げました。Qプロとは、九小の学校応援団の通称名です。活動主体は保護者連絡会と地域ボランティアです。学校応援団として、地域や保護者と九小が一体となって、子供の学びを応援する取組です。花壇美化活動、登下校安全見守りなど活動の幅が広がっています。しくみは右の図の通りです。
- 平成23年度に始まった放課後子供教室の居場所づくりに加えて、学校応援団や地域教育活動などの取組が見える化してきました。平成29年度にはQプロの活動のネットワーク化が整いました。



■学校運営協議会(Qカフェ)の展開・現在

○「IMO-ZOUツアー」(地域のよさの再発見ツアー)

平成28年度開校40周年と相まって、「IMO-ZOUツアー」を5回行いました。ねらいは、ふるさとの芋窪、蔵敷にある日常の風景、文化財や食文化を見て、聞いて、体験して、感じて、よさを再発見することです。Qカフェが「IMO-ZOUツアー」を企画し、Qプロが参加者を募集し、当日の運営にあたりました。のべ300人を超す親子が参加しました。(平成30年度まで実施)



IMO-ZOUツアー(狭山茶つみ体験)

○「あいさつルー運動」の取組から「九小あいさつ通り」を実現する「地域の力」

平成25年度から、九小では「あいさつルー運動」として、毎朝校門に子供が整列して、登校する子供と元気にあいさつを交わす取組を続けています。子供が自ら進んであいさつできるようになっています。保護者や地域の方から、「子供たちのあいさつの声に元気をもらって仕事に行けます。」「『九小あいさつ通り』ののぼりがあげられるとさらにあいさつの輪が広がります。」との評価を受けました。

これをきっかけに、Qカフェで「あいさつ通り」の設置について熟議を重ねました。そして、九小東門前の通りを「九小あいさつ通り」と命名し、のぼりをあげようという気運が一気に高まりました。ついには、本市に、学校と地域が一体となったあいさつ運動の取組と評価され、「九小あいさつ通り」の看板を設置する運びとなりました。子供たちの気持ちのよいあいさつが、九小地域にまで響くようになっていきます。

このように、Qカフェでは、月1回程度会合を開き、「ふるさと」や「地域の力」を生かしたよりよい学校づくりについて、熟議しています。問題を共有して、イメージしたことを形にすることで、九小地域の活性化につながっています。また、九小でしか味わえない、豊かな関わり合いと学び合いが生まれてきています。



九小あいさつルー運動

■持続可能な「コミュニティ・スクール」を目指して

- 子供一人一人の幸せのために、「よりよい九小の学校づくりを通じて、よりよい地域社会をつくる」という目標を共有して、子供も家庭も地域も学校もWIN-WINになることを目指していきます。
- 九小は「チーム九小」として①教育課程の見える化、②地域・保護者との良好な関係性の構築、③地域などの教育力を生かした学校運営を工夫して、「地域とともにある学校づくり」に取り組んでいきます。

